

<b>二中コミュニティ・スクールだより</b> ～市川市立第二中学校学校運営協議会～ <b>「夢・命・絆」</b>	令和4年度第5号 (通算第15号) 会長 小林 俊之 (文責 野手 裕之)
---	--

## 「令和4年度第5回学校運営協議会」報告

2月17日(金)午後3:30から、第5回学校運営協議会が、第二中学校の大会議室において、委員11名の出席のもとで開催されました。

まず協議に先立って、小林会長より、次のようなあいさつがありました。

年度末のお忙しい中、ご出席して頂きありがとうございます。また、これまで、学校運営協議会へのご協力に感謝いたします。卒業式や入学式でマスクなしでもよくなり、子どもたちの活動が活発に行えるようになることを希望します。最後に、今回の協議会においても、委員の皆さんから建設的なご意見を頂戴したいと思います。

次第
1. 協議 (1) 後期学校評価について (2) 令和5度の学校運営の方向について 2. 報告及び意見交換 (1) 卒業式・入学式について 3. その他



生徒会中心に、学校教育目標の看板がリニューアルしました。これからも素敵な学校教育目標「夢・命・絆」を大切にしていって欲しいです。なお、この学校教育目標になった当時の松永元校長はじめとした先生方やPTA本部・二中おやじの会の関係者などにお伝えしたところ皆さん大変感激していました。

### 1. 協議について

#### (1) 学校評価について

石田校長先生から、保護者アンケートの結果と改善の方向性や自由記述に対する学校の対応などについて説明があり、それに基づいて各委員から意見がありました。要点は次のとおりです。

項目	評価	委員からの意見(一部、要旨)
確かな学力	3.6	<ul style="list-style-type: none"> <li>保護者への説明を一層丁寧に行う必要であると思います。</li> <li>学校支援実践講座(交流会)が実施できてよかったと思います。</li> <li>信頼される学校になるように、もっと委員などと協働していければいいのではないかと思います。</li> </ul>
豊かな心	4.1	<ul style="list-style-type: none"> <li>時代の変化などを踏まえて、学校教育も変化する必要があると思います。</li> <li>能動的な学習は大切だと思っています。</li> <li>生徒のアンケートから単元テストによる効果(授業への意識など)がみられ、単元テストなどの取り組みは望ましいと思います。</li> </ul>
健やかな体	3.6	<ul style="list-style-type: none"> <li>変化に対する保護者の不安などがあるだろうと感じました。</li> <li>保護者の意見は宝物であるといわれますので、しっかりと改善のために活かして欲しいと思います。</li> </ul>
信頼される学校	3.9	<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもたちの意見をこれからも重視して欲しいと思います。</li> <li>非認知能力に影響するといわれている規則正しい生活習慣について、悪化しているようで、学校でも指導をした方がいいと思います。</li> </ul>

\*評価は5段階で委員の平均です。

### (2) 来年度の学校運営の方向性について

石田校長から、次年度の学校運営の方向性について、

「『夢・命・絆』という学校教育目標は、二中の基盤となっていることを強く感じており、引き続き、学校教育目標としていきたいと考えています。そして、生徒一人一人を大切に、「主体的・対話的な深い学び」を推進して「確かな学力」を確保すること、とりわけ「自己肯定感」や「自己有用感」の向上を目指して「豊かな心」を育むこと、より一層のコミュニケーションを充実させて「信頼される学校」を目指すこと」といった説明があり、全会一致で承認されました。

### 2. 報告及び意見交換

#### (1) 卒業式・入学式について

令和4年度卒業式を3月10日に、令和5年度入学式を4月12日に行いますので、学校運営協議会の委員の方にはご列席して頂きたいと思っております。

### 3. その他

学校運営協議会から3年生の皆さんへ

卒業おめでとうございます。皆さんの未来がますます輝きますように願っています。

## 学校支援実践講座(交流会)の様子

1年生の授業で「人とのかかわりあい」について学ぶ「学校支援実践講座(交流会)」が、1月18日(水)と1月30日(月)に行われました。

交流会では、架空事例(友だち同士のトラブル)をもとに、5人程度のグループで、思ったことや考えたことを1人1人が発表して、さらにそれぞれの意見を踏まえて話し合いをする授業です。各グループには地域支援者が入って話し合いなどを進めていきます。

今回の交流会では、二中PTA、真間小PTA、菅野小PTAなどの会長経験者10名を含めて、34名の地域支援者が参加してくださいました。

たくさんの中学生と支援者から「楽しかった」という声が聞かれました。



交流会の様子



上の写真は1月30日に参加して下さった市川市PTA連絡協議会関係者との写真です。これからも中学生のためにご支援をお願いします。

## 講習会（研修会）報告

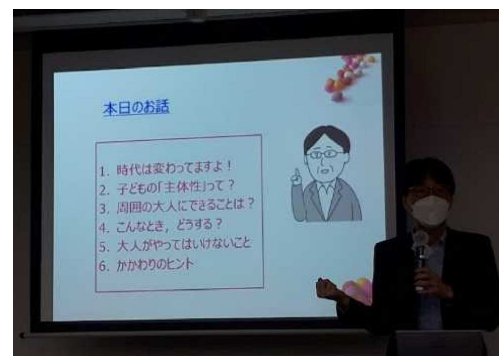
### ◎「地域とともにある学校づくりフォーラム」（市川市教育委員会主催）

1月24日（火）に、グリーンスタジオで、「地域とともにある学校づくりフォーラム」があり、コミュニケーションコーチである山崎洋実氏による「戦わないコミュニケーション～本音で語り合える関係の作り方～」をテーマにした講演がありました。何度も多くの参加者の笑い声が響いた楽しい講演でした。

○行動のコントロールと比べて、気持ち（心、感情）のコントロールは難しい、○他人と過去は変えられないけど、自分と未来は変えられる、○人は自分の基準の当たり前で、いいと思って行動している、そのような考えで人と接することが大切だという内容でした。

【YouTubeチャンネル「ひろっしゅ流！戦わないコミュニケーション」も参考になる動画がありますので、是非。】

### ◎第3回学校支援実践講座（市川市教育委員会主催）



1月26日（木）に、教育会館で、学校支援実践講座があり、児美川孝一郎氏（法政大学）による「子どもの主体性を伸ばすために～周囲の大人がどう関わるか～」という教育講演会がありました。

まず、現在の学校教育は、知識や技能を一方向的に伝授するのではない「主体的な学び」を重視しており、それは、学びや体験を「自分ごと」としてとらえて、自身の今後（キャリア）に活かしていくことである、というお話がありました。

その上で、家庭（第一の場）や学校（第二の場）以外のサード・プレイス（第三の場）は居場所としても成長・発達の間としても重要であり、そこでは、●子どもたちの興味ややる気の芽を大切にすること、●子どもたちを丸ごと受け止めて、認めること、●ほめてそっと励ますこと、●大人が充実した生き方のモデルになってあげることなどを意識して欲しいとのことでした。

### ◎令和4年度地域学校協働活動推進員研修講座《3期》（千葉県教育庁主催）

2月1日（水）に、「地域学校協働活動推進員研修講座」がオンラインで開催され、大坪直子氏（全国体験活動ボランティア活動総合推進センター）による「参考事例から考える地域コーディネーターの役割について」をテーマにした講演や松戸市と鴨川市の地域学校協働活動の実践発表がありました。

### ◎葛南地方生涯学習振興大会（葛南地方社会教育連絡協議会主催）

2月10日（金）、プラッツ習志野で、葛南地方生涯学習振興大会があり、井上尚子氏（一般社団法人エス・プレイス代表理事）による「地域で大人ができること」をテーマにした講演がありました。



学習指導要領の視点から（保護者を含む）地域と学校の協働の大切さや、協働はWin-Winの関係（できることを・できる時・できる人が楽しく）であることの大切さなどについてのお話がありました。また、「地域と学校と一緒に子どもを育てる学校」のためのコミュニティ・スクールの意義などを話されました。

## P連70周年記念式典について

### 【市川市PTA連絡協議会新時代ビジョン：感謝と共生の未来へ】

1月15日（日）に、行徳文化ホールI&Iで、市川市PTA連絡協議会の70周年記念式典が、田中市川市長や田中教育長などの来賓をお招きして開催されました。式典は、第一部は市川市立第七中学校吹奏楽部による記念演奏、第二部は記念式典、第三部は基調講演の三部構成で行われました。

#### 田中市長のあいさつ



「子どもたちの未来は市川市の未来」であり、社会全体で育てていくという思いで、学校給食費の無償化をスタートしました。これから成長していく子どもたちに、チャンス等を平等に与えられる市でありたいと思っております。

子どもたちの夢をしっかりとバックアップできる姿勢を邁進してまいりますので、皆様のご意見をお聞かせいただき一緒に前に進んでいきたいと思っております。

#### 田中教育長のあいさつ



P連の富田会長をはじめPTAの皆様には、市川市の教育に深いご理解を頂き感謝申し上げます。昨年のP連研究大会に参加させていただき、そこでの「教職員の働き方改革」についてご検討してくださったことに感謝するとともに、保護者と教職員はパートナーなんだということを改めて強く感じ、これからも、皆様とともに、よりよい市川の教育を作っていきたいと考えております。

保護者と教職員はパートナーなんだということを改めて強く感じ、これからも、皆様とともに、よりよい市川の教育を作っていきたいと考えております。



そして、第三部の基調講演では、「子どもたちのために私たちができること」をミッションにしている会社の代表取締役でありメンタルコーチとして活躍している久木田佳苗氏による「多様化の時代 子どもが自分らしく幸せに生きるために 今こそ大人たちが出来る事！」をテーマにした講演がありました。そこでは、「自分らしく生き抜く幸脳（sainou）育て」という視点でお話がありました。

幸脳は、幸せ（内面的なその人の幸せ、基準は自分自身）×才能（だれかと比べてではなく、その人それぞれがもっている個性）ということで、日常の子育てにおいて、結果を認められることでプラスに影響することもあるように、その子にあった対応が大切であるということでした。わかっていることではあるものの、なかなか実践できない部分もありますし、周囲の大人としてかわる際には、なおさら難しい部分であると感じました。

ただ、「日々、笑顔で向き合う（笑顔の連鎖）」という観点が重要であるということは、自分の子どもだけではなく、さまざまな機会での子どもたちとの触れ合いに際しても、一層意識していきたいと感じました。

講演の最後に、立場は違っても、子どもたちのためにできることを目指して心を一にする大切さ、子どもたちは宝で社会を虹色にする存在であることを共有することの大切さ、について強調された点には、個人的に特に共感しました。

**「子どもたちに大人自身が楽しく笑顔で向き合う」**